

1. 2026 年(令和 8 年)を迎えるにあたって

理事長 法安 章二



令和 8 年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。平素から、組合員・準組合員の皆様方には、当組合の事業推進につきまして、多大のご支援・ご協力をいただいていますこと、紙面をお借りして深くお礼を申し上げます。

昨年、トランプ関税、女性初の高市早苗首相誕生、中国との関係悪化など取り巻く環境が大きく変化しました。我々の業界でも埼玉県八潮市での道路陥没事故発生、熱中症対策の義務化、第 1 次国土強靱化実施中期計画の閣議決定、防災庁発足などさまざまなことが動き始めました。資材高騰や人件費の上昇に歯止めが効いていない中、将来にわたり持続

可能な業界としていくための取組みの重要性が増してきています。

八潮の道路陥没事故の復旧には、数年かかるだろうと言われています。昨年 3 月にまとめられた南海トラフ巨大地震の被害想定では経済的な被害・影響額は、物価高を背景に 292 兆円と増加しています。これからは施設の老朽化対策、耐震対策など事前防災・予防保全によりトータルでコストを軽減する方向へ切り替え、しっかりと「防災・減災、国土強靱化の取組みを加速する」必要があります。

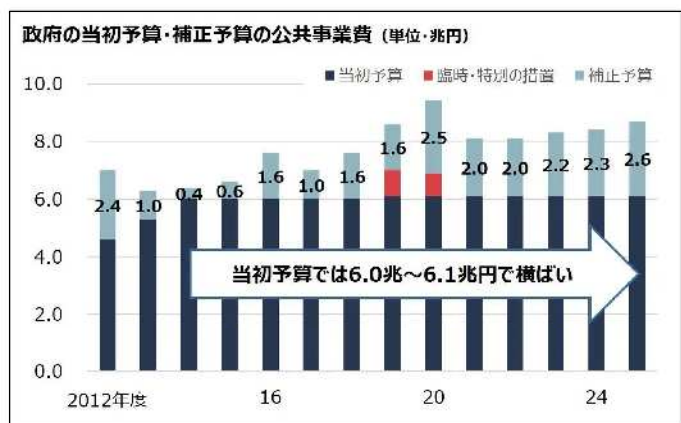
この国土強靱化事業を担うのは、応急復旧やその後の本格復旧を含め、地元の地質調査業、さらには建設コンサルタント業・建設業など、いわゆる地域に密着した地元業者です。このための人材確保や設備投資などは一朝一夕にできるものではありませんが、中長期の経営を見通し、ひいては地元の国土強靱化を円滑に進めていくことが重要です。

さて、12 月 16 日に補正予算が可決、成立しました。一般会計の総額は、物価高等を考慮した 18 兆 3034 億円（前年度+31%）となっています。公共事業費は 2 兆 6148 億円（国費）となり、前年度を 11.2%上回っています。「第 1 次国土強靱化実施中期計画」の初年度分の公共事業費には、このうち 1 兆 5500 億円を充てるようです。

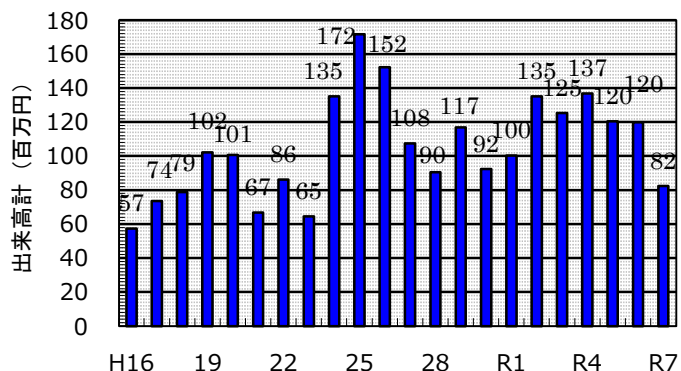
令和 8 年度（2026 年度）の国土強靱化予算の概算請求額を見ますと、第 1 次国土強靱化実施中期計画、5 年間（2026～2030）で約 20 兆円強規模の計画であり、初年度となるため、約 6.7 兆円と前年度比約 24～25%増になっており、このうち公共事業関係費は約 4.9 兆円とされています。

このような状況で、当組合の今期の地盤材料試験は、第 1 四半期～第 2 四半期の受注減がそのまま業績に影響を受けており、第 3 半期を終えて苦戦を強いられ続けていますが、年度末に向けて挽回していきたいと思っています。

このためには、組合員・準組合員様のご発注によるところが大きく、第 4 四半期も、新規発注や既に発注いただいております業務に対し、さらに引き締め、高品質な試験結果を提出してまいりますので、本年も変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



（建通新聞 電子版より 抜粋）



（第 3 四半期までの地盤材料試験売上）

2. 第 21 回技術講習会開催報告

令和 6 年の 1 月 1 日に能登半島地震が起こり、能登半島を縦断し、能登の大動脈とも呼ばれる国道 249 号の盛土の多くが崩壊、さらに災害時緊急輸送道路としても機能すべき「のと里山海道」でも盛土の被害が多数発生しました。以前においても、東日本大震災、平成 19 年能登半島地震、中越地震、中越沖地震、駿河湾沖の地震による東名高速道路牧之原 SA 近くの盛土など、多くの盛土崩壊を経験してきました。盛土の安全性が改めて問われているところです。

今回の技術講習会では、名古屋大学 大学院工学研究科 土木工学専攻 中野正樹教授に『土の締固めの新たな解釈－盛土強靱化に向けて』と題して、土の締固めのメカニズムについて、新たな視点、すなわち「土の骨格構造の概念」から解釈し、締固めやすい土、締固め度の違いを表現、説明して頂き、その後、泥岩高盛土の地震による変形、耐震のための強靱化（耐震対策）を提案して頂き、さらに能登半島地震での盛土崩壊と、盛土補強工法の効果を数値解析から説明して頂きました。

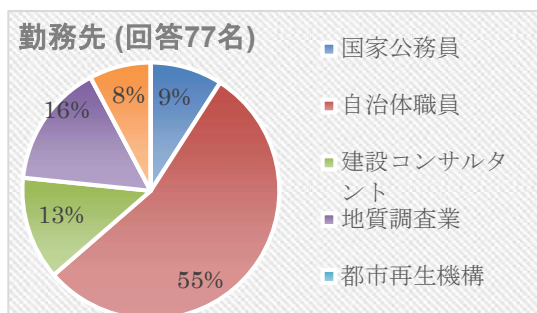
また、講演会前には地盤調査・地盤材料試験に対するご理解を一層深めていただき、日頃携わっておられまず地盤調査業務等の計画立案や調査・試験結果の妥当性評価の際に参考にしていただける土質試験見学会を開催しました。

2.1 参加者

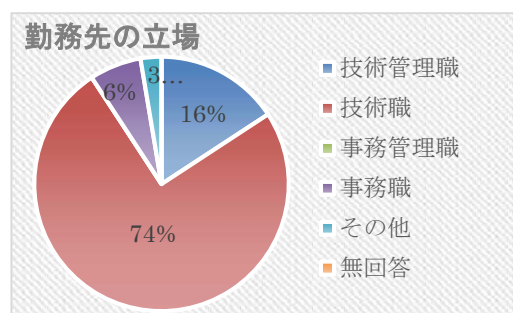
- ・ 申込：106 名（講演会）、76 名（見学会）
- ・ 当日参加者：94 名（講演会）、69 名（見学会） ※全体の当日参加率 90%

（参加者の内訳）

		国機関	県機関	市町村機関	中部電力	協会等	関係者	計
見学会	申込	13	19	28	5	7	4	76
	当日参加	10	17	27	5	7	3	69
講習会	申込	15	23	25	6	26	11	106
	当日参加	12	19	24	6	24	9	94



（アンケート回収者 77 名の参加者区分）



（職域区分）

2.2 講演概要

(1) 主たるご講演内容

- ①土の締固めのメカニズムについて、新たな視点として「土の骨格構造の概念」に基づいて解釈し、締固めやすい土・締固めにくい土、また締固め度の違う土の挙動を、土の弾塑性構成式で表現することにより説明した。
- ②同じ締固め度でも締固め特性のことなる土の盛土の地震時応答の違いを、数値解析により表現し、説明した。
- ③平成 21 年の駿河沖の地震で東名高速道路牧之原 SA 近くの盛土が崩壊した際、その原因として示された泥岩のスレーキング挙動に注目し、スレーキング現象を、やはり「土の骨格構造の概念」に基づき解釈し、スレーキングが進行した泥岩高盛土の地震による変形挙動を予測し、耐震のための強靱化（耐震対策）を提案した。
- ④能登半島地震での盛土崩壊と、盛土補強工法の効果を数値解析から紹介した。

(2) 当日配布された PPT に基づく講演内容

- 1) Proctor の締固めの原理
- 2) 土の締固めメカニズム締固めやすさの表現 —土の骨格構造概念による表現—
- 3) スレーキングが進行した泥岩盛土の地震時変形解析
- 4) 平成 19 年能登半島地震での道路盛土崩壊挙動の再現と令和 6 年能登半島地震での補強盛土の挙動予測

1) Proctor の締固めの原理

① Proctor とは

1. Proctorの締固めの原理—Proctorについて

Ralph R. Proctor (1894-1960)

1894年10月16日 米国イリノイ州で生まれる。

1913年(19歳) ロサンゼルス市水道・電力局測量手伝い・製図工／勤めながらUniversity of Southern Californiaで工学士取得

1916年 市水道・電力局正式職員

1960年まで、44年間、市当局が手掛けたアースフィルダム全ての建設にかかわった。



久野悟郎(1983), R. R. Proctor, 土と基礎(現:地盤工学会誌), 11月号

② Proctor が主張したかったこと

1. Proctorの締固めの原理 Proctorが主張したかったこと

Proctorにとっての締固め試験

最大乾燥密度 ρ_{dmax} , 最適含水比 w_{opt} を求める試験ではなく、ましてや締固め度 D_c を求める試験ではない。

飽和時の最小貫入抵抗が $300\text{lb}/\text{in}^2$ である土の状態を探ることが第1の目的

ちなみに lb とは ヤードポンド法における質量の基準となる単位: 453.59237g

in (インチ) は, 25.4mm , 手の親指の幅

$$\begin{aligned} 300\text{lb}/\text{in}^2 &= 21.1\text{ kgf}/\text{cm}^2 \\ &= 2.11\text{ tf}/\text{m}^2 = 0.211\text{ kN}/\text{m}^2 \end{aligned}$$

③ Proctor の主張

飽和した時の最小貫入抵抗が $300\text{lb}/\text{in}^2$ になるように突き固めると、その透水係数は無視しうほど小さく、飽和時の貫入抵抗による品質管理の可能性を拡張する。

1. Proctorの締固めの原理—Proctorの主張は？

フィルダムについては浸透水による土の飽和によって起こる軟弱化の程度を把握し、その限界を定めること

(1)スライド9, 10, 13の赤枠部分

(2)最大乾燥密度に対する締固め度 D_c は, Proctorの意図に反する表現方法が広まったと述べている。

(3)注目すべきは, 土の特性曲線

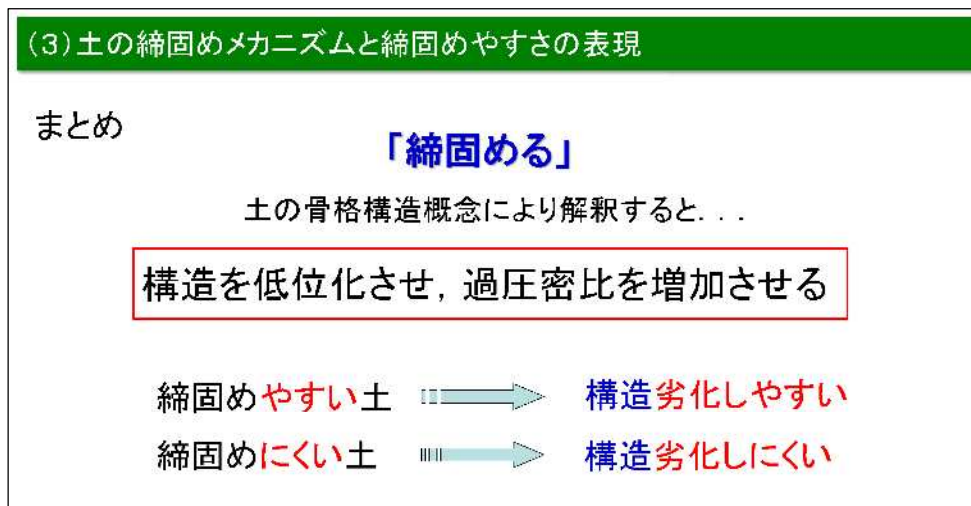
(4)飽和した時の最小貫入抵抗が $300\text{lb}/\text{in}^2$ になるように突き固めると, その透水係数は無視しうほど小さく, 飽和時の貫入抵抗による品質管理の可能性を拡張

Proctorにとっての締固め試験

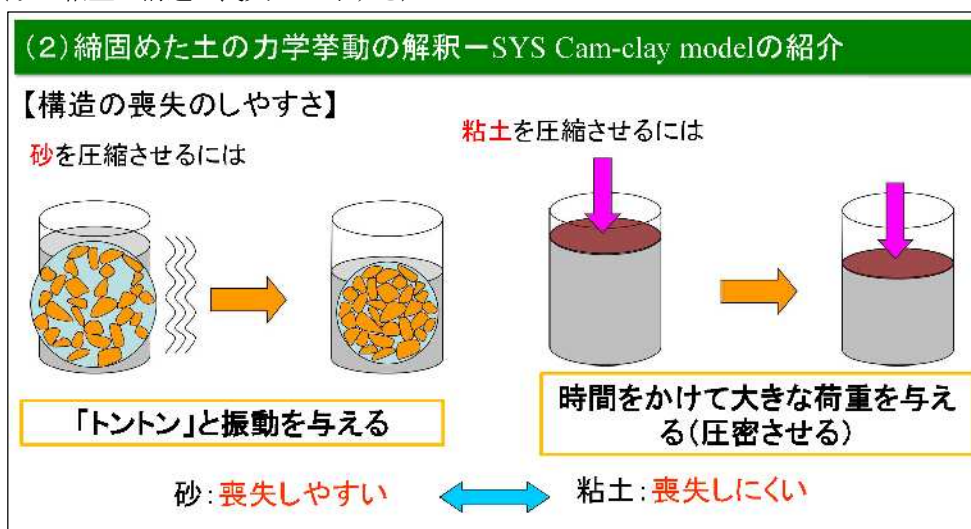
最大乾燥密度 ρ_{dmax} , 最適含水比 w_{opt} を求める試験ではなく、ましてや締固め度 D_c を求める試験ではない。

2)土の締固めメカニズム締固めやすさの表現 -土の骨格構造概念による表現-

①「締固める」を土の骨格構造概念により解釈すると、構造を低下させ、過圧密比を増加させること



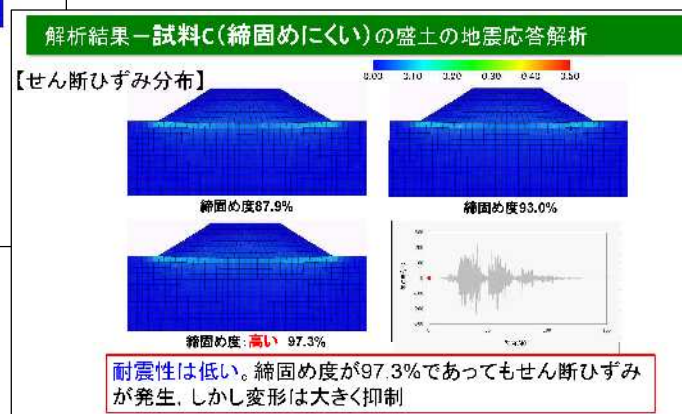
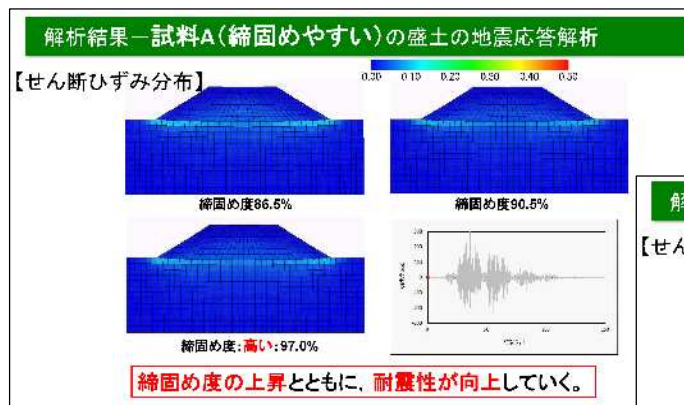
(砂と粘土の構造の喪失のしやすさ)



② 締固め特性の異なる盛土の地震時挙動

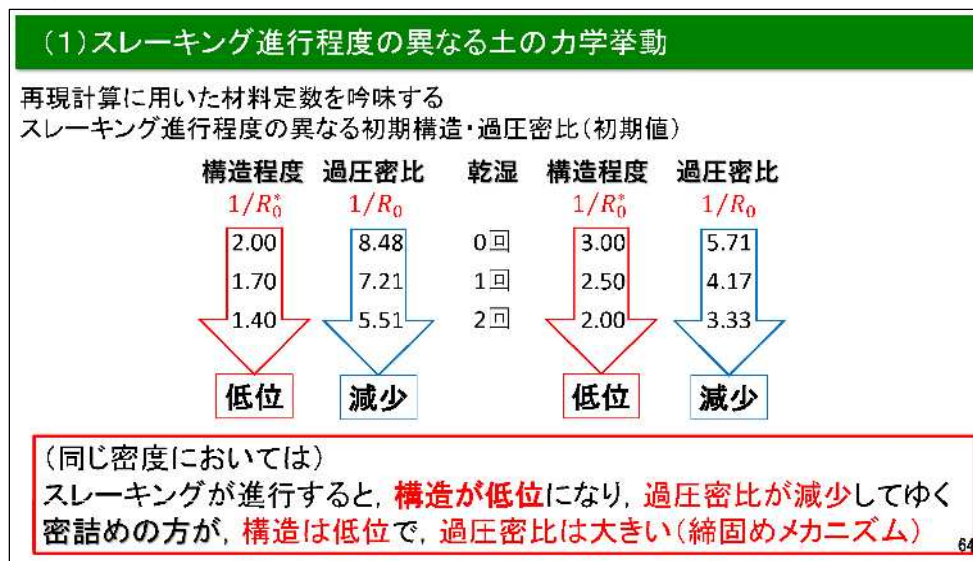
(水～土骨格連成有限変形解析 GEOASIA による数値シミュレーション結果、入力地震動は東海・東南海・南海さん連動地震)

- ・締固めやすいA試料: 締固め度の上昇とともに、耐震性が向上していく
- ・締固めにくいB試料: 耐震性が低い



3)スレーキングが進行した泥岩盛土の地震時変形解析

- ① 同じ密度において、スレーキングが進行すると、構造が低位になり、過圧密比が減少してゆく。密詰めの方が構造が低位で、過圧密比は大きい。



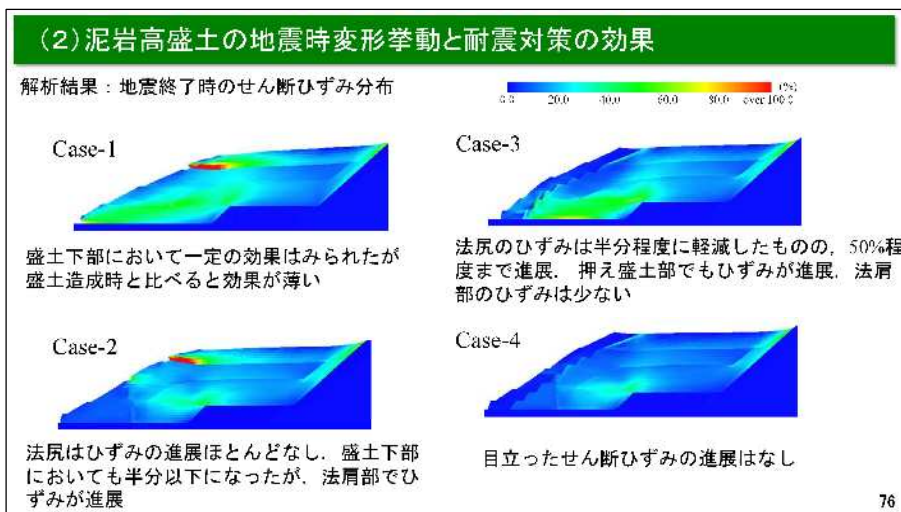
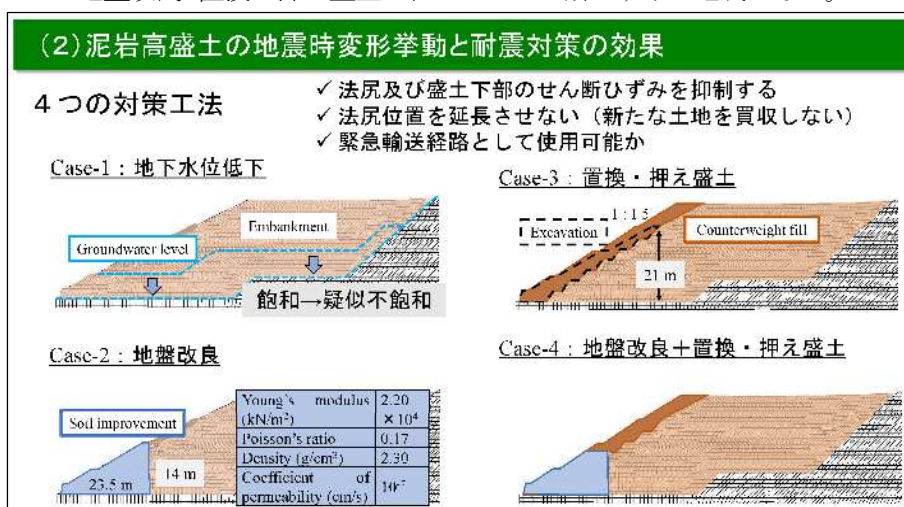
② 泥岩高盛土の耐震対策の効果

Case-1 地下水位低下：盛土下部において一定の効果はみられたが、盛土造成時と比べると効果が薄い。

Case-2 地盤改良：法尻はひずみの進展殆どなし、盛土下部においても半分以下になったが、法肩部でひずみが進展。

Case-3 置換・押え盛土：法尻のひずみは半分程度に軽減したものの、50%程度まで進展。押え盛土部でもひずみが進展。法肩部のひずみは少ない。

Case-4 地盤改良+置換・押え盛土：目立ったせん断ひずみの進展はなし。



4) 平成 19 年能登半島地震での道路盛土崩壊挙動の再現と令和 6 年能登半島地震での補強盛土の挙動予測

① 崩壊した道路盛土被害の特徴

- ・ 水平地盤上の盛土は崩壊していない。
- ・ 崩壊した盛土は全て傾斜地盤上に造られている。
- ・ 崩壊は地震中ではなく、地震後に遅れて発生している。

(1) 2007年能登半島地震での道路盛土崩壊挙動の再現


崩壊した道路盛土被害の特徴

【特徴1】**水平地盤上**の盛土は崩壊していない。

【特徴2】崩壊した盛土は全て**傾斜地盤上**に造られている。

【特徴3】崩壊は地震中ではなく**地震後**に遅れて発生している。

【盛土材料】
概ね**新第三紀中新世前期の穴水果層**、主として**凝灰角礫岩**であり、赤褐色を呈しており、**能登赤土**と称されている。のと里山海道（旧能登半島有料道路）の盛土材料は、概ね道路周辺の凝灰角礫岩を掘削して用いられている。





84

- ・ 斜面上の盛土の再現計算結果
→ 天端から遅れ崩壊が発生した
(解析断面と条件)

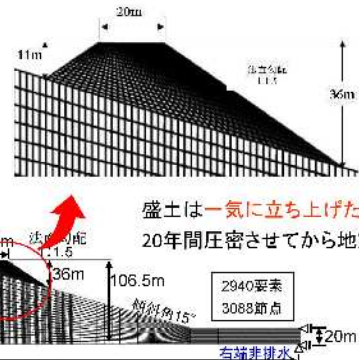
斜面上の盛土: 解析断面と解析条件

【1】対象盛土の位置



越の原IC付近

【2】盛土+地盤の解析断面



盛土は**一気に立ち上げた後**、
20年間圧密させてから地震波を入力

2次元平面ひずみ条件で計算

地盤は**完全飽和状態**で
透水性の悪い固い岩盤を想定

左端非排水

下端非排水

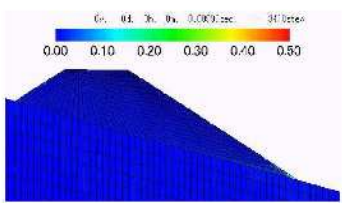
右端非排水

86

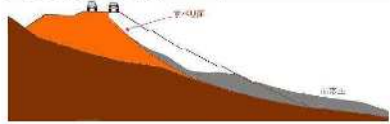
(再現計算結果)

再現計算結果

【1】せん断ひずみ分布



【3】実際の崩壊のスケッチ



【2】崩壊までの状況

- ①地震中に地盤と盛土法尻の境目に大きなひずみが発生し、盛土の中央付近もひずみが進行
- ②地震後に30%以上のひずみが生じている
- ③地震発生から2日後に天端中央付近から**すべり面**が発生
- ④その後、数十日をかけて大規模な**円弧すべり破壊**に至る

天端からの**遅れ崩壊**が発生した
実際の崩壊の再現もできた

88

- ② 平成19年能登半島地震のジオテキスタイルを用いた補強土工は、令和6年の地震において変形は軽微であった。

令和6年能登半島地震の補強盛土の挙動予測

2007年能登半島地震では、大規模崩壊が11ヶ所であったが、そのうち8ヶ所の盛土にジオテキスタイルを用いた補強土工が採用され、復旧を行った。

2024年能登半島地震においては、補強盛土の変形は軽微であった。

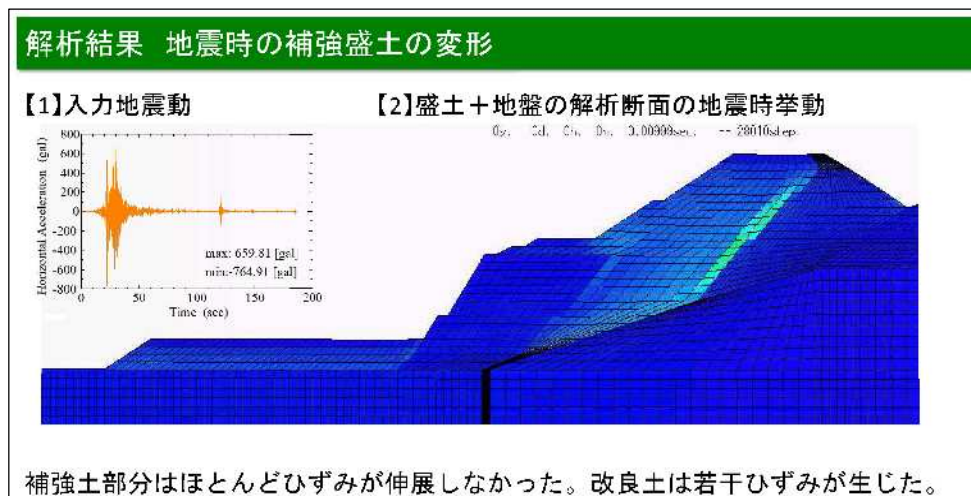
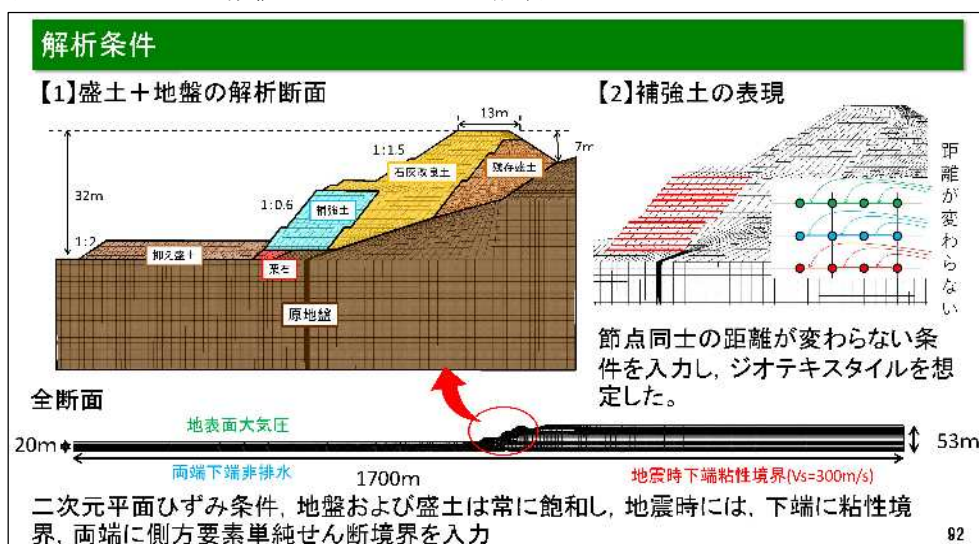
水～土連成有限変形解析コードGeoAsiaによる数値シミュレーションにより再現

のと里山海道(No.9)

福井県建設技術公社・辻慎一郎(2025)2024年能登半島地震の作用を受けたジオグリッド補強土壁の調査
https://www.fk-kosha.or.jp/storage/announce/announce_3732.pdf

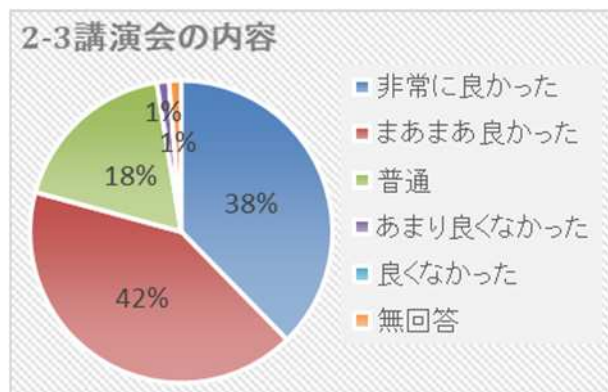
91

(GEOASIA による数値シミュレーション結果)

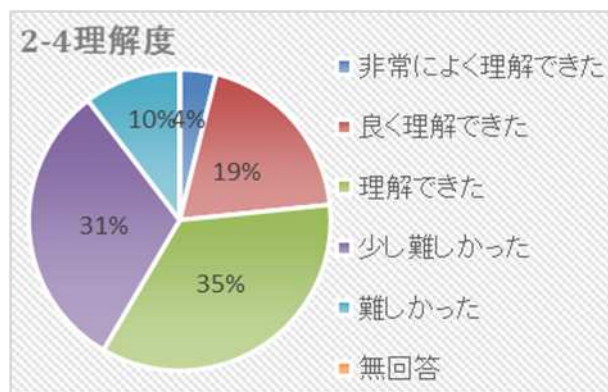


(3) 参加者のアンケート結果

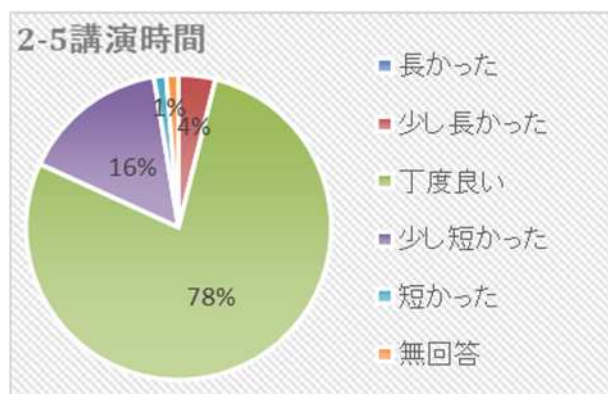
【講演会】



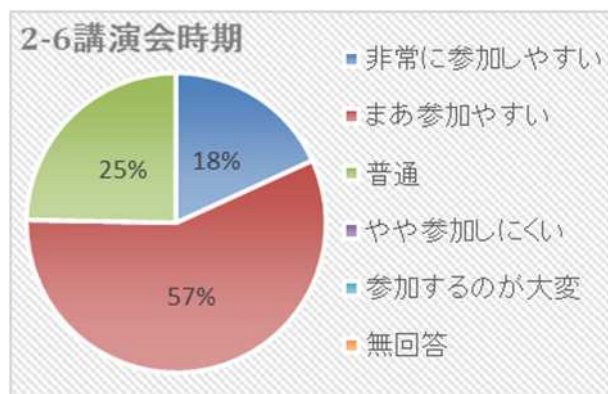
(講演会内容)



(理解度)

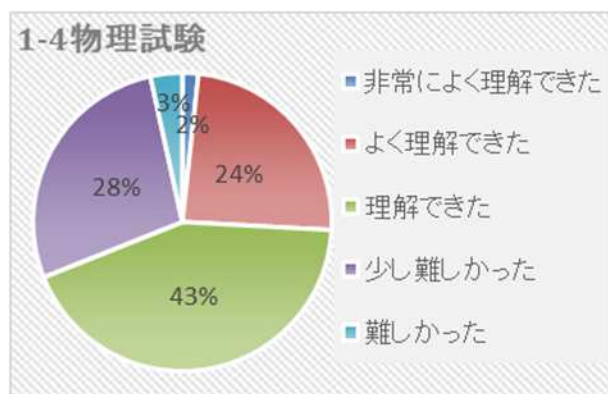


(講演時間)

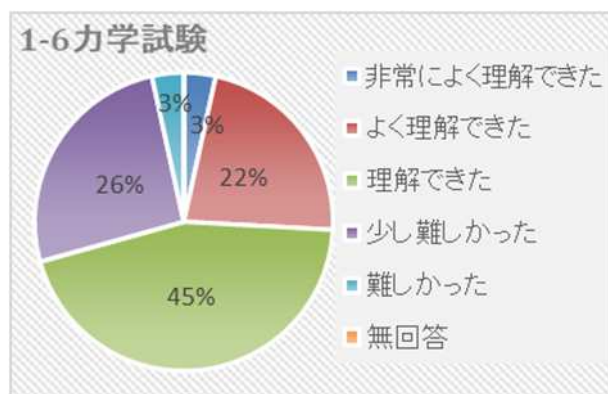


(講演会時期)

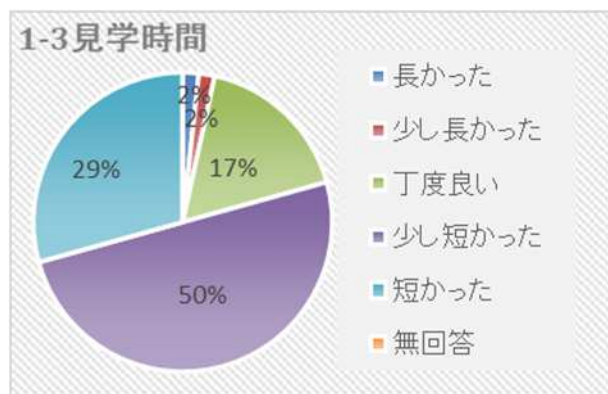
【見学会】



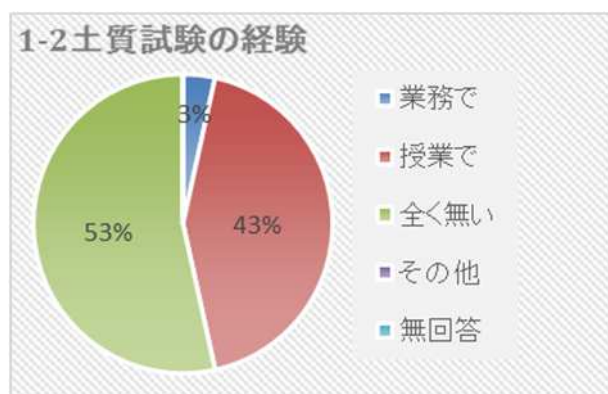
(物理試験の理解度)



(力学試験の理解度)



(見学時間)



(土質試験の経験)

(4) 開催状況

【講演会】



講師の中野先生



理事長挨拶



講演会



講演会参加者

【見学会】



見学会実施状況（試料採取）



見学会実施状況（物理試験）



見学会実施状況（力学試験）



見学会実施状況（材料試験）

中部土質試験協同組合 技術講習会を実施



試験所で見学会を実施

中部土質試験協同組合（法安章二理事長）は11月21日、中部地質調査業協会（伊藤重和理事長）後援で第21回技術講習会を2部制で開いた。

第1部は、同組合の試験所で土質試験・地盤材料試験見学会を実施。官公庁や自治体、発注企業などから約70人が参加し、組合職員が試験内容や装置、機械の操作方法を紹介した＝写真。

第2部は、場所を移動し講演会を開催。約110人が出席した。冒頭あいさつで法安理事長は、「当組合は、価値創造、技術力、社会貢献を使命として活動している。今後も信頼される地盤データの提供を行い、より高精度の試験装置の導入を視野に研さんしていく」と伝えた。

続いて、名古屋大学大学院工学研究科土木工学専攻地盤工学の中野正樹教授が、「土の締固めの新たな解釈ー盛土強靱化に向けて」をテーマに講演した。最後に、同組合技術顧問の浅岡顕名古屋大学名誉教授が閉会あいさつを行った。

3. ISO 運用と管理 –ISO9001 品質マネジメントシステムについて–

当組合のISO9001 品質マネジメントシステムは、平成14年5月にJQA（一般財団法人日本品質保証機構）の認証を受け、令和7年6月の更新審査により23年間継続しています。

実業務に当たっては、技術顧問の浅岡先生に大所高所からのご指導を頂き、岩石・材料試験、物理試験、力学試験、動的試験、社内システムの5種目毎にリーダーを配置し、試験業務の効率化（受入キャパの確保）、丁寧な顧客対応、試験業務内製化などに取組んでいます。

また、5名のグループ長の工程・品質管理、部長による納品前検査の実施により、品質目標を達成しています。

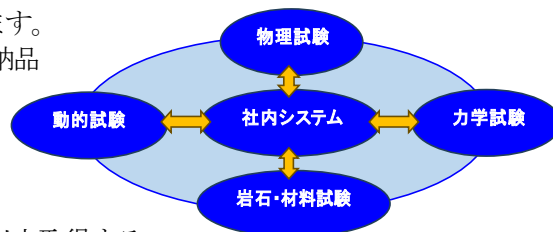
以下に、品質目標とアンケート結果を記載します。

〈令和7年度ISO品質目標〉

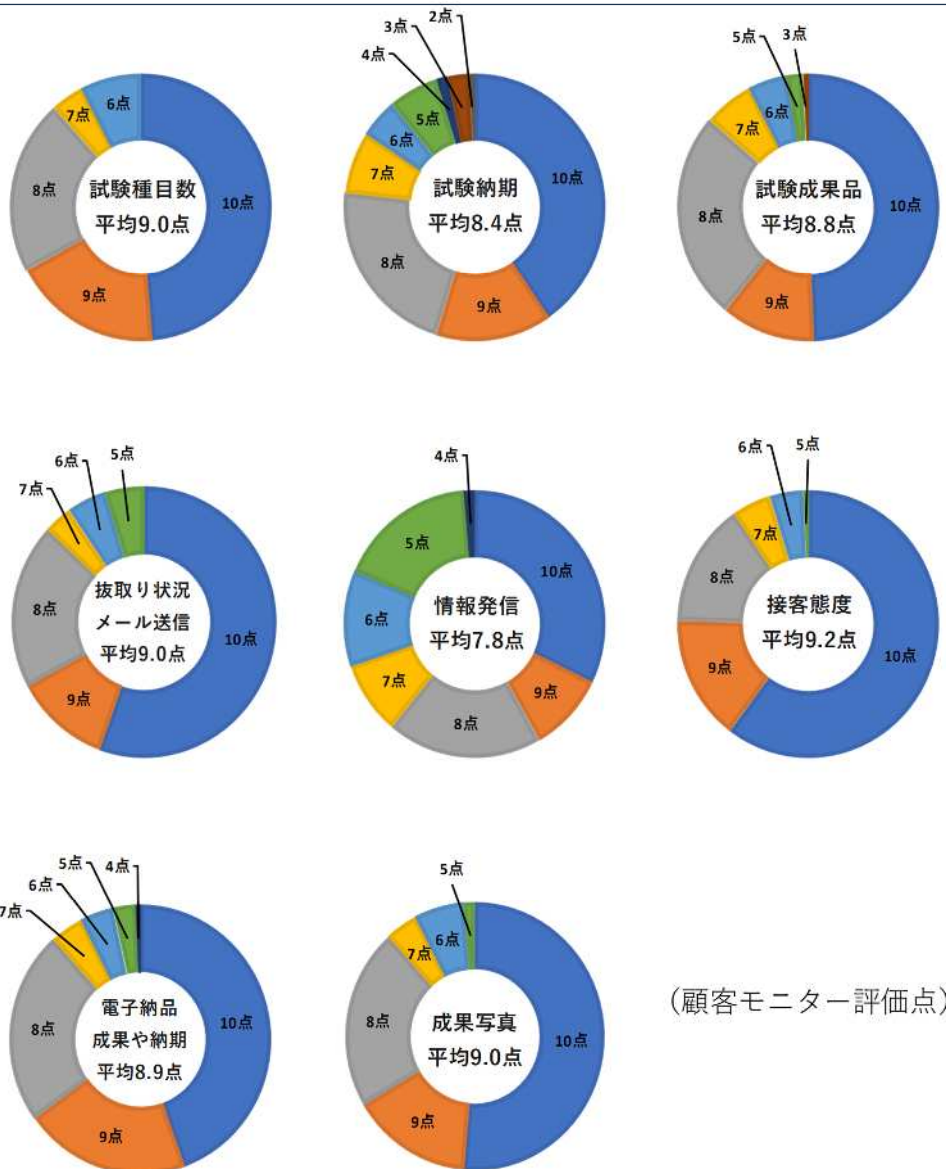
- a.顧客苦情の発生を年間0.10%以内にする。
- b.顧客モニターアンケートで、総合点を80.0点以上取得する。

〈令和6年度アンケート結果〉

- a.当組合では年間約1,000件の試験依頼があり、この内お客さまからの苦情を1件以内にする目標を掲げていますが、調査名記載ミス等はありませんでしたが、技術・品質に係わるクレームはありませんでした。
- b.お客様モニターアンケートの結果、146名の組合員・準組合員の皆様より回答をいただき、総合点は87.7点と品質目標が達成できました。ただし、情報発信や試験納期などの点数が比較的低いことから、これからも見学会・講習会の開催や、地盤工学会や中部地質調査業協会等への共催などによる、土質試験の情報発信を行うとともに、発注者様の工期を守るような受入キャパを確保できるように、適切な人員・設備・技術等を保持していきます。



回答数：146
総合点：87.7点



(令和6年度 アンケート結果)

4. 土質試験管理者 認定試験について

土質試験管理者認定試験は、平成29年からジオ・ラボネットワークの9組合職員（約100人）を対象に実施してきましたが、令和7年度より組合員（準組合員・賛助会員を含む）企業（約260社）の職員まで受験範囲を広げて実施することになりました。

受験方法等は以下の通りであり、拡大初年度に当たる今年度は、養成講座の受講者25名中、13名が筆記試験を受け、9人が面接試験受験者となり、最終合格者は9名でした。

【令和7年度土質試験管理者 資格試験実施日程】

- ・養成講座：6月19日（オンライン）
- ・筆記試験：9月25日 午後1時～午後4時
（試験場所：北海道・関東・中部・関西・岡山・広島・島根・宮崎の各協同組合）
- ・面接試験：11月13日 面接時間20～30分／1人
（面接場所：名古屋市内）
- ・合格発表：12月19日
（土質試験管理機構ホームページ（<https://www.geolab-net.com/stqao>）に記載）

※令和8年度もこのような日程で実施されると思いますので、受験の参考にしてください。

以下に、現在の土質試験管理者所属機関と人数をまとめました。

(土質試験管理者所属機関と人数一覧)

令和7年12月19日現在

所 属 機 関	人 数
北海道土質試験協同組合	4
協同組合土質屋北陸	3
関東土質試験協同組合	2
中部土質試験協同組合	4
協同組合関西地盤環境研究センター	5
協同組合岡山県土質試験センター	2
協同組合島根県土質技術研究センター	1
協同組合広島県土質試験センター	1
宮崎県地質調査業協同組合	1
株式会社 荒谷建設コンサルタント	1
興亜開発株式会社	1
株式会社 大同ソイル	1
東邦地水株式会社	2
株式会社 日さく	2
復建調査設計株式会社	1
合 計	31

(赤字は今年度合格者)

(1) 土質試験業務の将来性、資格の活用、認定者の増加の意義

- 1)認定者は地質調査技士を持ち、土質試験あるいは土質試験に関わる調査業務に10年以上従事しており、いわば土質試験に関するプロ（匠）です。この経験を地盤調査に活かすことは、今後ともインフラ整備の基礎を支えるために必須です。
- 2)土質試験の技術伝承や重要性認識の一助とり、企業や大学においても土質試験管理者を土質実験の指導者としての活用が期待されます。
- 3)有資格者を増やすことで、地質調査業の技術者にも土質試験の計画・実施などの技術力を高めてもらい、発注者の目的に合う適切な試験方法や試験箇所などを企画・提案し、構造物の安全性確保、結果的に施工計画の適正化による追加工事・工期延長の回避などトータルコストの最小化に繋がります。

(2) 地盤情報検定に必要

令和6年5月より、地盤情報検定のお申し込みに、土質試験責任者情報の入力が必要になりました。

「一般財団法人国土地盤情報センター ホームページ 2024.04.30 お知らせ」より抜粋

地盤情報検定お申込み時に「土質試験責任者」情報が必要になりました

平素より、地盤情報検定をお申込みいただき、誠にありがとうございます。

地盤情報検定のお申し込みの際に、下記の通り「土質試験責任者」情報の入力が必要になりました。

記

運用開始:2024年5月1日(水)のお申し込みより

入力条件:土質試験結果一覧表のある地盤情報検定

入力項目:土質試験責任者の氏名

有資格情報(なし・技術士・地質調査技士・土質試験管理者)

以上、対象検定(土質試験あり)については、土質試験責任者情報の入力をお願いいたします。

最後に

地質調査技士をお持ちの組合員・準組合員の技術者の方で、土質試験業務または地質調査において土質試験の計画・実施に10年以上携わっている方は受験可能です。受験してみたい方がでしょうか。

受験範囲を拡大した「土質試験管理者」資格試験の面接を実施

土質試験協同組合（ジオ・ラボネットワーク）が中心となって立ち上げた土質試験品質確保機構は11月13日、「土質試験管理者」資格の面接試験を実施した。9月25日に行った筆記試験には12人が挑戦し9人が面接まで進んだ。合格発表は12月19日に行われる予定。

同資格は本年度から、ジオ・ラボネットワーク職員のみを受験範囲を準組合員や賛助会員を含む企業の職員にまで拡大した。本資格認定者は、地質調査技士の資格を持ち、土質試験かそれに関わる調査業務に10年以上従事している必要があるため、土質試験に関するプロと言える存在。

中部土質試験協同組合の法安章二理事長は、「有資格者を増やすことで技術力が高くなり、発注者の目的に合う適切な試験方法や試験箇所を提案できるようになる。結果的に施工計画が適正となり、追加工事や工期延長の回避など、トータルコストの最小化にもつながるのではないかと。今後は同資格者の認知を業界内外で広げることが課題だ」と期待を寄せる。

5. 《シリーズ⑧》地盤材料試験の^{うたけ}蘊蓄

技術部 竹内 啓介

当組合のニュースレターにて度々紹介されている試験機の中に大型三軸試験機というものがあります、他の試験所にも中々置いていないこの試験機について今回はもう少し深く紹介していこうと思います。

当組合では三軸試験は小さい直径のものから大きな直径まで扱っておりますが一般的には直径 5 cmの三軸試験を行う試験機がメジャーなものになっております。その中で弊社の大部屋で堂々たる立ち姿でそびえ立っているのが今回紹介する大型三軸試験機になります。

この三軸試験機は昭和 50 年に作られた試験機で製造されてから約 50 年のベテラン選手になります。昔はダム建設が盛んだった際に大きな礫を含む三軸試験が必要であったため、かなりの頻度で試験機が稼働していたそうですが現在はそこまでの需要はなくなり、年間に 1～3 件程度の依頼にとどまっております。

ただ、その依頼も機材の珍しさから遠方より見学に来る方が多く、最近だと北海道から見学に来られた方もいました。この大型試験機は直径 20 cmと 30 cmの供試体で三軸試験を実施することが可能になっており、それぞれの供試体で以下のようなサイズと重量で供試体を用意します。



(大型三軸試験機)

直径20cm(φ200)

- 直径 20cm
- 高さ 40cm
- 重さ 約25kg



- 許容最大粒径 37.5mm以下

直径30cm(φ300)

- 直径 30cm
- 高さ 60cm
- 重さ 約130kg



- 許容最大粒径 53.0mm以下

このように、供試体1つで多くの試料量が必要になるため、(30 cmの場合は特に)依頼をいただくと試料搬入の準備や試験機が古いため毎回整備が必要になってまいります。

もしも、大型三軸試験のご依頼をいただく際には必要量や搬入時期について事前にご相談いただければと思います。

6. ジオ・ラボネットワークからのお知らせ

■ ジオ・ラボネットワーク経営懇談会臨時会が開催されました。

- ① 開催日時：令和7年11月7日 14:00～17:00
- ② 参加者：24名(全地連：2名、各組合代表者22名)
- ③ 開催場所：広島ガーデンパレス
- ④ 主な報告・審議内容

各協同組合から上期運営状況の報告がありました。

- ・土質試験を含む地質調査の発注件数が減少傾向にあり、設計精度を高める土質試験の実施は不可欠である。
- ・試験単価を改定したため、売上目標が確保できている側面がある。(今年度8組合中6組合が10～40%の単価アップを行った)

- ・能登震災関連の国・県発注は徐々に減少しているが、設計会社からの依頼は増えている。等

その他、スキルアップ研修会・技術交流会・地盤工学会バナー広告・全地連技術フォーラムブース展示・土質試験品質管理機構活動などの報告がありました。

また、各協同組合保有の土質・岩石試験データについて、「著作権」および「守秘義務」の観点から、各方面からデータの提供を受けても、提供しないことになりました。



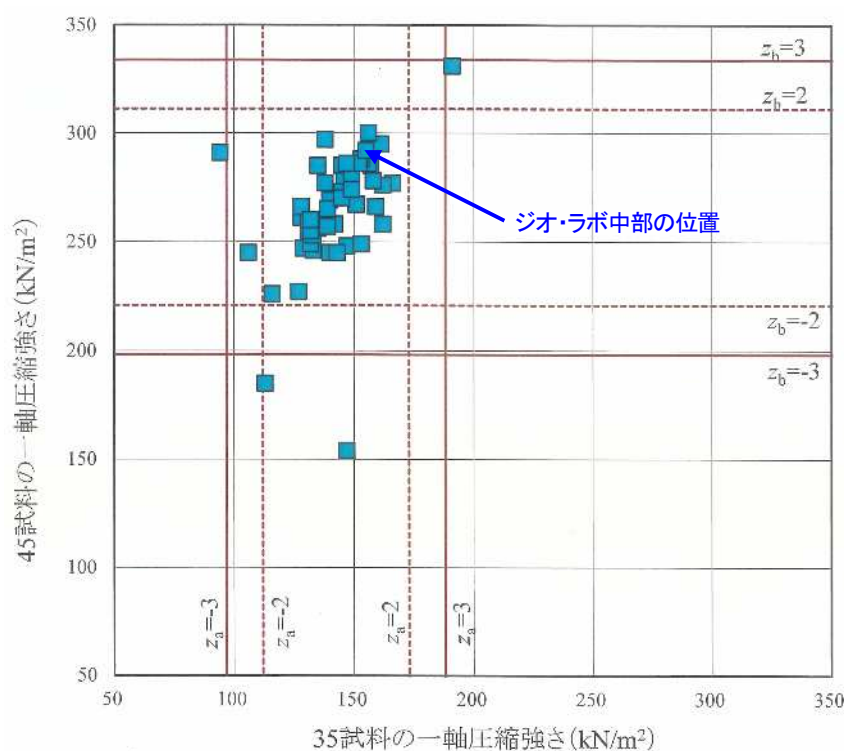
(広島ガーデンパレス 会議室)

■ 土質試験品質管理機構主催にて技能試験が実施されました。

技能試験の目的は、一斉に実施した土質試験結果を基に、各機関の試験技能・試験器具の管理・確認・改善、試験技能の客観的評価(他機関との比較)や自社の技術者教育(試験技能の向上)等に役立たせることです。

令和7年度は8月に一軸圧縮試験と湿潤密度試験を対象に、50機関(建設会社・地質調査会社・土質試験実施機関など)が参加しました。

評価は各試験の z スコアを基に行いますが、当組合は一軸圧縮強さで $z_a=0.10$ $z_b=-0.53$ 、湿潤密度で $z_a=-1.35$ $z_b=-2.70$ であり、 $|z| \leq 2$ の満足な範囲にあり、一定の評価が得られました。



(散布図による評価(一軸圧縮強さ))

■ ジオ・ラボネットワーク 試験処理能力について

全国9組合によるネットワーク化は、災害時のみならず業務集中時の処理能力を飛躍的にアップさせることができます。また、各組合間では、ほとんどの試験で相互互換システムが構築できているため、ジオ・ラボネットワークサーバーを介した互換性にとんだ納品が可能となっています。

※平成19年6月に「ジオ・ラボネットワークにおける災害時相互支援に関する協定」を終結しており、災害時に活用します。また常時の繁忙期にも、各種試験の相互支援ができる体制をとっています。

災害時に集中、大量処理が可能(一例をご紹介します)

- ・粒度(フルイ+沈降)：3,930 試料/月
- ・一軸圧縮試験：1,430 試料/月
- ・三軸(UU)圧縮試験：960 試料/月
- ・CBR(設計)試験：570 試料/月
- ・液状化試験：128 試料/月

7. 組合からのお知らせ

■ 令和8年度の講習会・見学会の予定

ジオ・ラボ中部に関係する、令和8年度に予定されている講習会や見学会などをまとめて示します。CPDポイント取得や継続教育などにお役立てください。

(令和8年度の講習会・見学会の予定)

講習・研修会等	主催者	後援・共催・協賛	令和7年度実施日	令和8年度
1 ボーリング・土質試験見学会	(公社)地盤工学会中部支部 セミナー部会	(一社)中部地質調査業協会 中部土質試験協同組合	4月18日(金) 61名参加	4月開催予定
2 第2回フレッシャーズ土質試験研修会	中部土質試験協同組合	(一社)中部地質調査業協会	5月21日(水) 13名参加	5月開催予定
3 「地質調査と土質試験」研修会	三重県建設技術センター	三重県地質調査業協会 中部土質試験協同組合	—	5月29日(金)開催予定
4 土質試験体験実習	(公社)地盤工学会中部支部 セミナー部会	中部土質試験協同組合	6月11日(水),12日(木) 14名参加	6月開催予定
5 第35回調査・設計・施工技術報告会	(公社)地盤工学会中部支部 技術報告会部会	(一社)中部地質調査業協会 他	6月20日(金) 151名参加	6月5日(金)開催予定 (名古屋大学ES総合館1階ESホール)
6 第7回組合員技術交流会	中部土質試験協同組合	(基礎地盤コンサルタンツ(株))	5月26日(月)	6月開催予定(株キンキ地質センター)
7 第61回地盤工学研究発表会(静岡大会)	(公社)地盤工学会	国交省・静岡県・静岡市	7月22日(火) ～25日(木)	7月7日(火)～10日(金)開催予定 (グランシップ静岡) パナー広告
8 第38回中部地盤工学シンポジウム	(公社)地盤工学会中部支部 シンポジウム部会	(一社)中部地質調査業協会 他	8月4日(月) 64名参加	8月開催予定
9 スキルアップ研修会	ジオ・ラボネットワーク	協同組合 土質屋北陸	8月28(木)、29日(金) 14名参加	10月開催予定 (協同組合岡山西土質試験センター)
10 全地連「技術フォーラム2026」岐阜	(一社)全国地質調査業協会 連合会	(一社)関東地質調査業協会 他	9月6日(水), 7日(木)	11月9日(月),10(火)開催予定 (長良川国際会議場) ブース展示
11 第14回技術研修会	ジオ・ラボネットワーク	中部土質試験協同組合	10月2(木)、3日(金) 20名参加	5月21日(木),22日(金)開催予定 (協同組合 関西地盤環境研究センター)
12 令和8年度 基礎技術(土質・地質)研修	中部地方整備局 中部技術事務所	(一社)中部地質調査業協会 中部土質試験協同組合	10月14日(火),15日(水)	未定
13 中部ミニフォーラム2026	(一社)中部地質調査業協会	(公社)地盤工学会中部支部	10月17日(金)	10月開催予定
14 第22回技術講習会	中部土質試験協同組合	(一社)中部地質調査業協会	11月21日(金)	(隔年開催)

■ 直通(携帯)電話へ

皆さまから受注しました地盤材料試験は、1件につき1名の担当職員が、試験工程の管理～納品までを、責任もって対応しております。試験条件・追加試料、または技術的問い合わせなどに付きましては、担当者へ直接連絡できるように、直通電話を携帯していますので、お気軽にご連絡ください。

これからも直通電話により、きめ細やかな技術サービスを心がけます



組合代表	052-758-1500	FAX	052-758-1503
久保	080-7023-3810	竹内	080-4466-6112
小倉	080-7515-4466	大橋	080-4466-6176
池田	080-3359-4466	土屋	080-4466-6207
岩田	080-7023-3805	松本	080-7200-8729
石原	080-4466-9563	小川	080-7200-8167
清水	080-4466-6188	法安	080-7023-3811